

教育報告

富山大学教養英語カリキュラム改革 —2022（令和4）年度からの実施に向けた軌跡—

木村裕三，竹腰佳誉子，山岸倫子，水野真理子，藤川勝也，小田夕香理

This article reports the preparation for the new English curriculum of the Liberal Arts and Sciences (LAS) starting from 2022, and provides a critical review of the extent to which the new curriculum meets the aims and goals expected by the Working Group of LAS English Curriculum Renovation. First, the authors illustrate two contrastive preceding examples of LAS English curricula to examine the strength of each case from two different universities. Second, a brief history of LAS English curricula at three campuses of the University of Toyama is reviewed to clarify the extent to which unique LAS English classes were carried out independently before the Institute of LAS unified them in 2018. Third, after showing how “English Literacy” and “English Communication” were unilaterally introduced by the then-university authority, the authors examine the purpose and advantages of the “2-credits-by-2-classes” system, which was unfortunately not accepted by the directors of the university due to shortages they could not eradicate. Finally, the authors review the most updated “1-credit-by-4-classes” system, a combined proficiency-leveled and content-based curriculum due to be introduced in April 2022. In the final section, the authors provide a critical discussion on the several issues facing the new LAS curriculum to help establish a future platform when the time comes for a fine-tuned revision.

1. はじめに

本稿の目的は、2022（令和4）年度から始まる富山大学全学新教養英語カリキュラム改訂の内容とその準備過程を記録に残し、どのような意図を持って新カリキュラムが構築されたのかを振り返ることを可能にするところにある。そして新カリキュラムを批判的に考察し、将来の改訂に備え、微調整が必要になった際の正確なプラットフォーム（基盤）を提供することにある。

教育課程（カリキュラム）は学校教育の根幹を成す。特に時代や社会が変化し、価値観が変遷する

に伴い、カリキュラムにも変化や進化が社会から要求され、国家は社会からの要求を敏感に察知し、教育機関に対しその要求に見合ったカリキュラム編成を求める。例えば知識やスキルの伝達とその再現を標榜した旧来の「伝統的教育(traditional pedagogy)」に対し、21世紀に出現した「変容的教育(transformative pedagogy)」(Cummings, 2004; Nitta & Yamamoto, 2020)は、先行きの見えにくい VUCA¹時代を生き抜くための力を涵養するために大学英語教育カリキュラムに求められる教育観といえる。

「変容的教育」を支える大学教育カリキュラムにとっての重要な要素は、学習者の主体性(learner agency)(Gao, 2010; Vitanova, Miller, Gao, & Deters, 2015)をいかに意識し、全人的教育視座でカリキュラムを構築できるか (Manyukhina & Wyse, 2019)にある。カリキュラム改訂の際にはこの点をまず念頭に置くことが求められる。とはいえ、カリキュラム運用の担い手となる人材には現実上限界があることも無視できない重要な要因である。運用可能なカリキュラムを改築することは、大学にとって不可欠であるとともに、困難を伴う作業でもある。

大学の教養課程における英語教育カリキュラムに関しては、すでに多くの大学において改革が一巡している(例えば次節の先行事例)。これら全ての大学においては、何等かの英語外部試験を活用した習熟度別カリキュラムが構築され、すでにかかなりの時間が経過し、その成果も確認できる。一方、富山大学では3つの単独大学(旧富山大学〔統合後通称:「五福キャンパス」〕、富山医科薬科大学〔統合後通称:「杉谷キャンパス」〕、高岡短期大学〔統合後通称:「高岡キャンパス」])が統合した2005(平成17)年4月以降、そして高等教育機構の下位組織として共通教育センターが設置された2008(平成20)年以降、さらには教養教育のヘッドクォーターとして教養教育院が設置された2016(平成28)年以降も教養課程英語教育は、五福キャンパス、杉谷キャンパス、高岡キャンパスの教養課程英語カリキュラムがそれぞれ別々に連綿と実施されており、統合を機にした新しい教養英語カリキュラム設置は実現しなかった。

教養教育院設置2年後の2018(平成30)年によろやく富山大学全学の教養英語教育が統合され、1単位4科目1年間のカリキュラムが導入された。本論で報告する内容は課程認定遵守義務から解放され、教養教育院としての新たなカリキュラム導入が可能となる2022(令和4)年度に備えた準備の記録とその新カリキュラムへの批判的考察である。

2. 先行事例

2000年代初頭、日本の国立大学では「外国語教育センター」(一般名)を設置し、大学の教養課程英語教育のヘッドクォーターとしての役割を付与する一連の動きが見られた。例えば愛媛大学英語教育センター(2001〔平成〕13)年4月設置)、島根大学外国語教育センター(2001〔平成〕13)年4月設置)、広島大学外国語教育センター(1997〔平成9〕年4月設置)、神戸大学国際コミュニケーションセンター(2003〔平成15〕年4月設置)はその事例に含まれ、多くの大学で学内改組が行わ

¹ V(Volatility: 変動性), U(Uncertainty: 不確実性), C(Complexity: 複雑性), A(Ambiguity: 曖昧性)

れ、専任教員を配置して大学教養英語教育を展開している。一方、教養英語だけでなく、教養教育段階の全ての学科・科目を担当する全学的な組織として改組した事例としては、山口大学教育センター（2002〔平成14〕年4月設置）、新潟大学教育・学生支援機構（2019〔平成31/令和元〕年改組設置）、金沢大学国際基幹教育院（2017〔平成29〕年4月設置）、佐賀大学全学教育機構（2011〔平成23〕年4月設置）などが挙げられる。このうち、対照的な2大学の事例を先行事例として検証したい。まず、2019（令和元）年12月27日に本学で講演を頂いた、早瀬博範副学長（当時）を組織長とする佐賀大学全学教育機構を取り上げる。

佐賀大学全学教育機構（対象学生数2020年度入学生1,627名）は16の「部会」から構成される。教養英語は「共通基礎語学部会」に所属し、そのカリキュラムは一般英語（必修）1単位4科目を各学期1コマずつ2年間で履修する。4月当初の「英語A」は入学時の学籍簿順クラスとして編成されるが、1年次後期「英語B」から3段階の習熟度別クラス編成が開始され、2年次前期の「英語C」でその習熟度を更に再編し、2年次後期の「英語D」へと繋ぐ。この一連の学修進行過程に3つのTOEICの受験・自己学習の機会が埋め込まれている。1つ目は1年次前期終了時に全学生が受験する第1回目のTOEIC IPと、2年次後期に「英語D」の成績に30%が全学部学生に一律加味される第2回目のTOEIC IPである。2つ目は、佐賀大学全学教育機構で開発されたPre-TOEICで、これは第1回目と第2回目のTOEIC IP受験前の模擬テストとして受験希望者に提供されると共に、1年次後期「英語B」修了後には、「英語C」習熟度再編のためのスコアとして全員が受験する。3つ目は、「e・TOEIC」と呼ばれるe-ラーニングツールで、これは教養課程の2年間、希望者にアクセスを常時開放し、自己学習体制を整備している（図1参照）。ここから判明することは、佐賀大学全



図1：3つの TOEIC L&R（佐賀大学全学教育機構早瀬博範先生講演資料より）

学教育機構の英語教育に対する真摯な取り組みと、大学が担うべき社会や高校、生徒の親に対する責任感の認識である（早瀬, 2016, p. 101）。英語改革前の教養英語の問題点を「1. 50名以上のクラスが大半, 2. レベルの格差, 3. 僅少なネイティブ・スピーカー担当クラス, 4. カリキュラムがシステムティックに整備されていない, 5. 学生のニーズに応えられる授業展開が不十分である」（早瀬, 2016, p. 100）と真摯に捉えた上で、改革を進めている点は大いに参考としなければならない。

もう1つの全学的英語教育の先行事例として金沢大学国際基幹教育院（対象学生数2021年5月時1,764名）を取り上げる。金沢大学国際基幹教育院の教養教育英語の特長は、「共通シラバス, 共通教材, 共通評価」（澤田, 私信, 2021年10月19日）を基本方針としながら、「TOEIC 準備」コース（I～IV）と「EAP(English for Academic Purposes)」コース（I～IV）を学類ごとにまとめ、それらをブロックごとに時間割に位置付け、クォーター制を導入して1年間で8単位（1単位あたり1コマ90分授業を8回）を履修できるシステムにある（表1～3）。

「TOEIC 準備」コースの設置はスーパーグローバル大学創成支援事業²: グローバル化牽引型（タイプB）（日本学術振興会, 2021年10月19日）への採択をその契機としている。「平成26年度スーパーグローバル大学事業『スーパーグローバル大学創成支援』構想調書【タイプB】・金沢大学」（日本学術振興会, 2021, October 19）によれば、学生の英語能力レベルを客観的に把握するため1年次と3年次に英語外部試験の全学生受験を義務化³、「TOEIC760点またはTOEFL iBT80点到達学生割合を2023年までに学士課程の75%以上」（p.27）にすると謳われている。したがって、「調書に明確にTOEICの目標スコアを書き、また、学生に受験を義務化するのであるから、1年次の英語カリキュラムに『TOEICの名を冠した』TOEIC 準備コースを作る必要がある」（澤田, 私信, 2021年10月19日）、このコースが考案・設置された。文字通り、TOEIC 得点アップのための授業科目と言える。評価についても、全クォーターでTOEICに特化した全学共通試験（成績反映率80%）を実施し、教員の授業内評価（20%）と合計する。全学共通試験のTOEICの得点はそのまま成績に反映させるのではなく、「金沢大学独自の数式により」（澤田, 私信, 2021年10月19日）換算される。それは、TOEIC 自体が一般社会人の英語圏における仕事・生活を想定した英語力を測定するための試験であり、「高校卒業後の学生の英語学習経験を想定した試験ではないので、そのままスコアを利用することは不適切」（澤田, 私信, 2021年10月19日）と捉えられているからである。

クラス割当ては履修ブロックごとにあらかじめ決められた時間帯に割り当てられたクラスで履修しなければならないが（金沢大学国際基幹教育院, p. 33）、同じブロック内の「TOEIC 準備」コースについては上位層、中位層、下位層の習熟度別クラス編成を取っている。そのための根拠となるデータとしては、第1および、第2クォーターでは大学入試センター試験の成績を活用する。第3およ

² 徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、高等教育の国際通用性、国際競争力強化の実現を図り、優れた能力を持つ人材を育成する環境整備のための大学支援事業。2014年2つのタイプに計37校（タイプA:13校、タイプB:24校）が採択され、最大10年間の支援が受けられる。金沢大学はタイプB（グローバル牽引型）に北陸・甲信越・東海地区で5校（国立大学4校）のうち北陸地区からは唯一採択された。

³ 1年次は2014年度（国際基幹教育院設置時）から、3年次は2020年度からTOEICの全学受験を義務化している（澤田, 私信, 2021年10月19日）。

び、第4クォーターでクラスを再編成し、その際には第1および、第2クォーターで行った全学共通試験の結果を習熟度別クラス編成に活用する。

一方「EAP」コースは共通シラバス、すなわち、共通教育目標・授業目標に沿って「推奨教科書・推奨教材」を指定している。「EAP」コースでは敢えて「TOEIC 準備」コースのような習熟度別クラス編成を取っておらず、「授業活動における相互の学び合いを大切にする」（澤田，私信，2021年10月19日）ことを重視している。クラス規模が第3・第4クォーターで20名という小規模であるため、「学力の異なる学生がお互いに学び合う」（澤田，私信，2021年10月19日）、「学びの共同体」（佐伯・藤田・佐藤，1996）を理想としているようである。

表1：金沢大学教養英語科目種（金沢大学国際基幹教育院，2020，p.31）

GS 言語科目のコースと授業科目

コース名	授業科目名
「TOEIC 準備」コース	TOEIC 準備 I
	TOEIC 準備 II
	TOEIC 準備 III
	TOEIC 準備 IV
「EAP」コース	EAP I
	EAP II
	EAP III
	EAP IV

それぞれの授業科目は1単位で、8つの授業科目を履修して、8単位となる。

表2：金沢大学教養英語科目種（金沢大学国際基幹教育院，2020，p.32）

GS 言語科目の内容と開講クォーター

授業科目	内容	開講クォーター	クラスサイズ (人数)
TOEIC 準備 I	主にリスニング	第1クォーター	30
TOEIC 準備 II	主にリーディング	第2クォーター	30
TOEIC 準備 III	リスニング・リーディングの統合	第3クォーター	30
TOEIC 準備 IV	リスニング・リーディングの統合	第4クォーター	30
EAP I	アカデミックライティング導入	第1クォーター	30
EAP II	パブリック・スピーキング導入	第1クォーターまたは第2クォーター	30
EAP III	統合型アカデミック英語の授業（初級）	第3クォーター	20
EAP IV	統合型アカデミック英語の授業（中級）	第4クォーター	20

開講時間帯と履修ブロック

GS 言語科目の開講時間帯は、複数の学類等を組み合わせた「履修ブロック」ごとに設定されています。各履修ブロックに対応する学類は、次のとおりです。

文系第1ブロック（文系1）：人文学類，法学類，国際学類

文系第2ブロック（文系2）：経済学類，学校教育学類，地域創造学類，総合教育部（文系）

理系第1ブロック（理系1）：数物科学類，物質化学類，生命理工学類，総合教育部（理系）

理系第2ブロック（理系2）：理工3学類一括，地球社会基盤学類

医薬保ブロック（医薬保）：医学類，薬学類・創薬科学類，保健学類

表 3 : 金沢大学教養英語科目種 (金沢大学国際基幹教育院, 2020, p.32)

履修ブロックごとの開講時間帯と授業の種類

第 1 クォーター

第 2 クォーター

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1		文系 1 TOEIC 準備 I	理系 2 TOEIC 準備 I	文系 2 TOEIC 準備 I	医薬保 TOEIC 準備 I	1		文系 1 TOEIC 準備 II	理系 2 TOEIC 準備 II	文系 1 TOEIC 準備 II	医薬保 TOEI C 準備 II
2		文系 1 EAP I	理系 1 TOEIC 準備 I	文系 1 EAP II	理系 1 EAP I	2			理系 1 TOEIC 準備 II		理系 1 EAP II
3	文系 1 EAP I			医薬保 EAP II	理系 2 EAP II	3					理系 2 EAP II
4	医薬保 EAP I		文系 2 EAP II			4					
5						5					

第 3 クォーター

第 4 クォーター

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1		文系 1 TOEIC 準備 III	理系 2 TOEIC 準備 III	文系 2 TOEIC 準備 III	医薬保 TOEIC 準備 III	1		文系 1 TOEIC 準備 IV	理系 2 TOEIC 準備 IV	文系 2 TOEIC 準備 IV	医薬保 TOEIC 準備 IV
2			理系 1 TOEIC 準備 III	文系 1 EAP III	理系 1 EAP III	2			理系 1 TOEIC 準備 IV	文系 1 EAP IV	理系 1 EAP IV
3				医薬保 EAP III	理系 2 EAP III	3				医薬保 EAP IV	理系 2 EAP IV
4	文系 2 EAP III					4	文系 2 EAP IV				
5						5					

3. 教養教育院設立前と設立後 3 年間の 3 キャンパス教養英語カリキュラム

2005 (平成 17) 年に富山大学が統合され, 2008 (平成 20) 年に共通教育カリキュラムを検討する共通教育センターが設置され, 2016 (平成 28) 年に富山大学教養教育のヘッドクォーターとして教養教育院が設置された。この間, 富山大学の教養教育一元化は準備されたものの, 各キャンパス (五福, 杉谷, 高岡) ではそれぞれ旧富山大学, 富山医科薬科大学, 高岡短期大学の教養英語カリキュラムが展開された。教養教育院設置後, 教養教育が一元化される 2018 (平成 30 年) 年 4 月までの 2 年間, 教養教育院では教養教育一元化のための授業科目の整理を目的とした「新教養教育カリキュラム等検討ワーキンググループ」を各部会⁴内に設置し, ワーキンググループ下に「サブメンバー」を必要に応じて作ることを許容しながら 3 キャンパスの教養英語教育の整理・縮小化を図った。本節では一元化される前の五福, 杉谷, 高岡で独自に展開されていた教養英語カリキュラムの実態を把握し, キャンパス間の差異と多様性を押さえておきたい。

五福キャンパスの各学部では 1 年次に「英語 A」を前期 2 科目 (各 1 単位), 後期 2 科目 (各 1 単

⁴ ここでいう「部会」とは, 教養教育院の全学出動体制を支える組織である。富山大学全学の兼任・授業担当教員が所属する各学問領域ごとの 9 系にそれぞれ設置されている (例: 「人文科学部会」「社会科学部会」等。英語は「外国語部会」に初修外国語と共に所属する)。

位)、計4単位を卒業要件としていた。各期の「英語A」のうち1科目は担当教員が自由に教材を選定し、内容も一任されていたが、他の1科目はTOEICを意識した教材・授業内容であることが謳われていた(五福キャンパス教養教育ガイド, 2016, p. 9)。また2年次以降、「英語A」の履修済みを条件として外国語B科目の中に「英語B」という発展的内容を扱う自由単位を設置していた(五福キャンパス教養教育ガイド, 2016, p.15)。

杉谷キャンパスの医学部・薬学部では、教養英語が選択必修として2年次まで存在した。履修学生も1年次とほぼ変わらない人数が在席し(医学科では2年次前期英語〔講読〕Ⅲを必修)、授業で英語に接する機会を確保した。授業内容は医療系に特化したESP⁵(English for Specific Purposes: 「特定の目的のための英語」)が多く展開されていた。医療系学生向けの教科書や教員独自で医療系に特化した独自教材を使用し、工夫・展開されていた授業が多くを占めた。また、教養英語科目ではないが、学生の自主的な英語への取り組みに対する支援としてe-ラーニング教材を使った自学自習形態の「CALLセミナー」が、加えて海外短期留学とそれに関連する内容への支援として「海外研修・留学英語準備セミナー」が自由単位として設置されていた(表4, 5, 6)。(富山医科薬科大学, 2001; 富山大学杉谷(医療系)キャンパス, 2017)

表4: 医学科語学科目年次別担当表

授業科目名	単位	必修	履修年次				英語(講読Ⅲ)必修1単位を含め、7単位選択必修
			1前	1後	2前	2後	
英語(講読)	4	選	I	II	III(必)	IV	
英語(会話)	2		I	II			
英語(作文, リスニング)	2				作文	リスニング*	
ドイツ語	4		基I実I	基II実II			
フランス語	4		基I実I	基II実II			
中国語	4		基I実I	基II実II			
CALLセミナー	2	自由	1	1	1	1	6年次後期まで開講
海外研修・留学英語準備セミナー	2	自由	1	1	1	1	

高岡キャンパスの芸術文化学部(表7)では、1年次開講必修科目としての「イングリッシュコミュニケーション入門1, 2」(英語会話授業, ネイティブ教員担当)と「英文表現・理解A(1, 2)」(英文読解中心授業, 日本人教員担当)が存在した。殊に「英文表現・理解A(1, 2)」では「地域・身近な事柄」「日本」「異文化」の3つのテーマで共通化された「共通教材」を開発し、芸術を専攻する学生を高岡という地域と結びつけながら英語学習への動機を高める工夫がなされていた(深谷・小田, 2016)。また2年次英語教育では、2014年度に改定された英語カリキュラムにより「選

⁵ 東條(2015)は、大学英語教育を「特定目的のための英語」ESPを上位概念とし、「アカデミックという特定の目的のための英語」としてEAPを下位概念として捉えている。また、田地野, 水光(2005)はESPをさらに下位分類し、EAPとEOP(English for Occupational Purposes: 職業目的のための英語)に分類し、EAPをさらにEGAP(一般アカデミック目的のための英語: 全学共通科目英語がここに入る)とESAP(特定アカデミック目的のための英語: 学部・大学院専門英語がここに入る)に分類している。

択必修」の指定が設けられ、履修者の数が順調に増加した記録がある（小田, 私信, 2021年10月

表 5 : 看護学科語学科目年次別配当表

授業科目名	単位	必選	履修年次				・ I～Ⅷのうち6単位 習得 ・ Ⅶ, Ⅷは看護専門英語として3年次に開講 ・ 6単位を超えた単位は選択科目
			1前	1後	2前	2後	
英語 I	1	必修 6単位	1				
英語 II	1		1				
英語 III	1			1			
英語 IV	1			1			
英語 V	1				1		
英語 VI	1					1	
英語 VII	1					1	
英語 VIII	1			3年次に開講			
CALL セミナー	1	自由	1	1	1	1	4年次後期 まで開講
海外研修・留学準備セミナー	1	自由	1	1	1	1	

表 6 : 薬学部語学科目年次別配当表

授業科目名	単位	必選	履修年次				・ I～Ⅷのうち6単位 以上習得
			1前	1後	2前	2後	
英語 I	1	必修 6単位	1				
英語 II	1		1				
英語 III	1			1			
英語 IV	1			1			
英語 V	1				1		
英語 VI	1				1		
英語 VII	1					1	
英語 VIII	1					1	
CALL セミナー	1	自由	1	1	1	1	4年次後期 まで開講
海外研修・留学準備セミナー	1	自由	1	1	1	1	

20日)。「資格の英語 (A,B)」が2015年より復活し、2019年(2年次時)に教養教育一元化によって廃止されるまで、TOEICに特化した授業が行われていた。そしてこの間、30名～70名の履修者が在席していた(深谷・小田, 2016; 小田, 私信, 2021年10月20日)。以上から分かるように、高岡キャンパスにおいても教養英語は極めて高度なESP型授業が展開されていた。殊に、芸術系学生のための共通教材冊子を開発した教養英語が実践されていた点は特筆に値する。

表 7 : 英語授業科目および単位数 (富山大学芸術文化学部, 2017, P.6)

科目名	実施形態	単位	年次	学期	造形芸術コース	デザイン工芸コース	デザイン情報コース	建築デザインコース	芸術文化キュレーションコース	分野ごとの要件単位
イングリッシュ・コミュニケーション入門 1	実技	1	1	前	◎	◎	◎	◎	◎	
イングリッシュ・コミュニケーション入門 2	実技	1	1	後	◎	◎	◎	◎	◎	
イングリッシュ・コミュニケーション中級 1	実技	1	2	前	○	○	○	○	○	
イングリッシュ・コミュニケーション中級 2	実技	1	2	後	○	○	○	○	○	
英文表現・理解 A-1	演習	2	1	前	◎	◎	◎	◎	◎	
英文表現・理解 A-2	演習	2	1	後	◎	◎	◎	◎	◎	
英文表現・理解 B-1	演習	2	2	前						
英文表現・理解 B-2	演習	2	2	後						
資格の英語 A	演習	2	2	前						
資格の英語 B	演習	2	2	後						

◎は必修科目，○は選択必修科目，空欄は選択科目

4. 教養教育一元化（2018〔平成30〕年以降の教養英語科目とその課題

教養教育院設置（2016〔平成28〕年）から2年間、当時の新教養教育外国語部会英語分科会カリキュラム検討WGとそのサブメンバー（第I期）は、各キャンパスの英語教育の実態を共有しつつ、その特徴を新教養英語へつなげる活路を見出そうとしていた。そのような中で、ESPをより反映した杉谷・高岡キャンパスにおける教養英語教育と、その色合いの薄い五福キャンパスにおける教養英語を、理念・理論を背景に短時間で一元化することは非常に困難な作業であった。そうした厳しい状況下において、第I期外国語部会長（英語）、英語副部会長間では当初「英語Ⅰ～Ⅳ」を各学期2コマずつ履修する案を策定し、学務課（当時）へ提出した（2016〔平成28〕年12月13日）。学務課からは「教職課程認定向けに『コミュニケーション』という文言が必要であるため再考が必要」と打診があったものの、さらに部会で審議した結果、「英語Ⅰ」2コマ、「英語Ⅱ」2コマというより簡素な案を再提出した（2017〔平成29〕年1月17日）。

大学側と外国語部会（英語）との折り合いがつかないまま、外国語部会長から教養教育院理事に直接説明を求め、2017（平成29）年2月1日に、教養教育院長（当時）出席のもとで説明会が設定された。また、当日資料の新教養英語科目として「英語講読・作文Ⅰ」「英会話Ⅰ」（以上前期）「英語講読Ⅱ」「英会話Ⅱ」（以上後期）が説明会よりも事前に提示されていた。ところが、説明会当日に提示された新教養英語科目は上記の4科目と異なり、「英語リテラシーⅠ」「英語コミュニケーションⅠ」（以上前期）「英語リテラシーⅡ」「英語コミュニケーションⅡ」（以上後期）へと変更されていた（図2）。英語教員の合意が得られないまま教養英語科目が「学長決定事項」として一方的に提示され、了承せざるを得ないという現実に対し、説明会に出席した英語教員からは強い反発の声が聞かれ

た。同日夕方に学長と外国語部会長との面談の席が設けられたが、学長からは、「原案で進行してもらいたい。しかし最終案ではなく、部局の意見も聞きながら決定する。『リテラシー』と『コミュニケーション』の違いを明確にする準備をしておいて欲しい。」(奥村, 2017) と伝えられた。

H30以降新教養教育における外国語科目の整理について

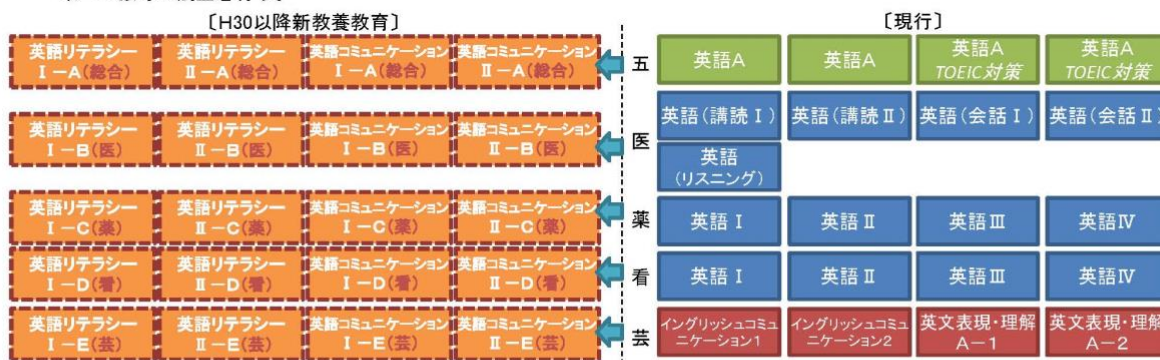
平成29年1月31日学長決定

1. 英語・初修外国語（英語及び母語以外の外国語）共通

- ・語学は全て30時間の授業（15回）をもって1単位とする。
- ・学部・学科の特性により、必要に応じて特定分野に対応する語学教育を実施する。
- ・基礎履修要件を必要とする外国語科目（五福キャンパス教養教育：ドイツ語B、フランス語B、中国語B、朝鮮語B、ロシア語B、ラテン語B等、英語Bは廃止）は、全学共通で卒業要件単位としない自由科目とする。

2. 英語

- ・医学部医学科及び芸術文化学部の現行の体系をベースに、五福キャンパスの現状を勘案し、英語リテラシー及び英語コミュニケーションの2系統とする。英語リテラシーにおいては、読解記述を中心に英語の基盤的な力と活用する力を身に付けさせる。英語コミュニケーションにおいては、英語によるコミュニケーションに必要な4技能（読書聴話）を総合的に身に付けさせる。
- ・全学部・学科において4科目4単位履修させることを基本としつつ、実際の卒業要件は学部が定め、教養教育院が開講授業コマ数等の調整を行う。



※原則として、Iは1年前学期、IIは1年後学期に開講する。
 ※**赤色**は、教員免許状の取得に必要な外国語コミュニケーション科目として課程認定を申請する。
 ※**青色**の文字は、所属学部・学科ごとの履修推奨や専門分野であり、シラバスや授業時間割において示し、規則上標記しない。
 規則における授業科目名は、大学設置基準に基づきアルファベット記号により識別する。
 ※末尾の英字を除く規則上の授業科目名が同一の科目は、重複して履修できない。

1

図2：2017（平成29）年2月1日、教養教育院長（当時）から提示された2018（平成30）年からの新教養英語科目

この一件から新教養英語カリキュラム検討WGが受けた衝撃は大きかった。その衝撃は、しばらく続き、大学からの一方的な決定に対する疑念・不満を抱く教員が多勢であった⁶。しかし、やがて「前もってこうなる前に一元化後の英語教育カリキュラム改革案をまとめ、大学側に提示すべきだった」という真摯な反省もWGメンバー内に見られるようになり、同じ轍を踏まないためには、英語教員側で先行案を提示することが必要であるという認識が広まった⁷。

⁶ WG内のメールの記録より。

⁷ 2017（平成29）年11月16日（木）に実施された第1回新教養教育英語部会会議（3キャンパスの英語専任教員を対象とした初回会議）席上、外国語（英語）部会長から新教養教育に習熟度カリキュラムを導入することは大学側の方針として固まっており、回避できる状況にはないこと、部会先行で議論を進め、「英語リテラシー」「英語コミュニケーション」名を大学側から決定されたような状況を今後生まないことを確認した。

5. 2018（平成 30）年度開始の教養英語科目への対処・工夫と 2022（令和 4）年度新教養英語カリキュラム策定（幻となった「2 単位×2 科目」制カリキュラム）

第 I 期以降英語分科会カリキュラム検討 WG は当時まだ現在ほど普及していなかったオンライン会議システム(LogMeIn, 2021)を使い、月 1 回の定例会議を実施した。その過程で大学執行部から提案された「英語リテラシー I・II」「英語コミュニケーション I・II」に対し、以下のような措置を施した。

- 1) シラバスの「授業のねらいとカリキュラム上の位置付け」「到達目標」の共通化
- 2) キャンパス単位（五福文系、五福理系、杉谷、高岡）のクラス編成の維持と、キャンパスごとの担当者の継承。これにより、杉谷キャンパスと高岡キャンパスでそれまで実践されてきた ESP 型英語教育が継続可能となった。
- 3) 限定的な習熟度別クラス編成の構築：「基礎力拡充クラス⁸⁾」を前期から、「上級クラス」を後期から設置することを計画した⁹⁾。

2022（令和 4）年度からの新教養英語カリキュラムの出発点は、「カリキュラムに整合性・理念を持たせること」、「クラス規模をできるだけ縮小すること」の 2 つがその主な目標であった。前者は「英語リテラシー」「英語コミュニケーション」間にも「I, II」間にも理念的な背景が存在しなかったことの欠陥を補うためであり、後者は、キャンパスごとに作ったクラス規模に偏りが見られた（表 8）ためである。

表 8：2020（令和 2）年度教養英語クラス規模

英語 L.C 〔授業科目グループ〕	前 期		後 期	
	クラス数(L+C)	学生数 ¹⁰⁾	クラス数(L+C)	学生数
〔五福文系・理系〕	60(30+30)	48	60(30+30)	46
〔医学科〕	6(3+3)	33	6(3+3)	26 ¹¹⁾
〔看護学科〕	6(3+3)	38	6(3+3)	32
〔薬学部〕	4(2+2)	41	4(2+2)	38
〔芸術文化学部〕	6(3+3)	39	6(3+3)	39

現行の英語教員数を維持しながらカリキュラムに理念・整合性を持たせ、さらにクラス規模を縮小

⁸⁾ 「基礎力拡充クラス」設置アイデアの源流は、五福キャンパスで「英語 A」を担当していた岡崎浩幸教授（大学院教職実践開発研究科）の発案による。英語の入試を経験することなく推薦入試制度で入学する一定数の学生について、特別なケアが必要という提案があり、その提案を受けて実現した。

⁹⁾ 詳細は、水野、山岸、木村、竹腰、藤川、小田、荻原（2022）を参照。

¹⁰⁾ 1 クラス当たりの学生数

¹¹⁾ 「大学以外の学修施設等における学修の認定」制度により認定された学生が他学科・グループより多かった。

化（1クラス30名程度）するために、教養英語1科目を2単位とする案を構築した（図3、4）。すなわち1科目1単位、年間4単位（週2コマ）のカリキュラムから、e-ラーニング（ALC NetAcademy NEXT¹²）を授業外で活用し、1科目2単位（週1コマ）年間4単位のカリキュラムへ変更を試みた。主として佐賀大学の先行事例を素地とし、結果として非常勤の削減にも繋がることも見越していた。

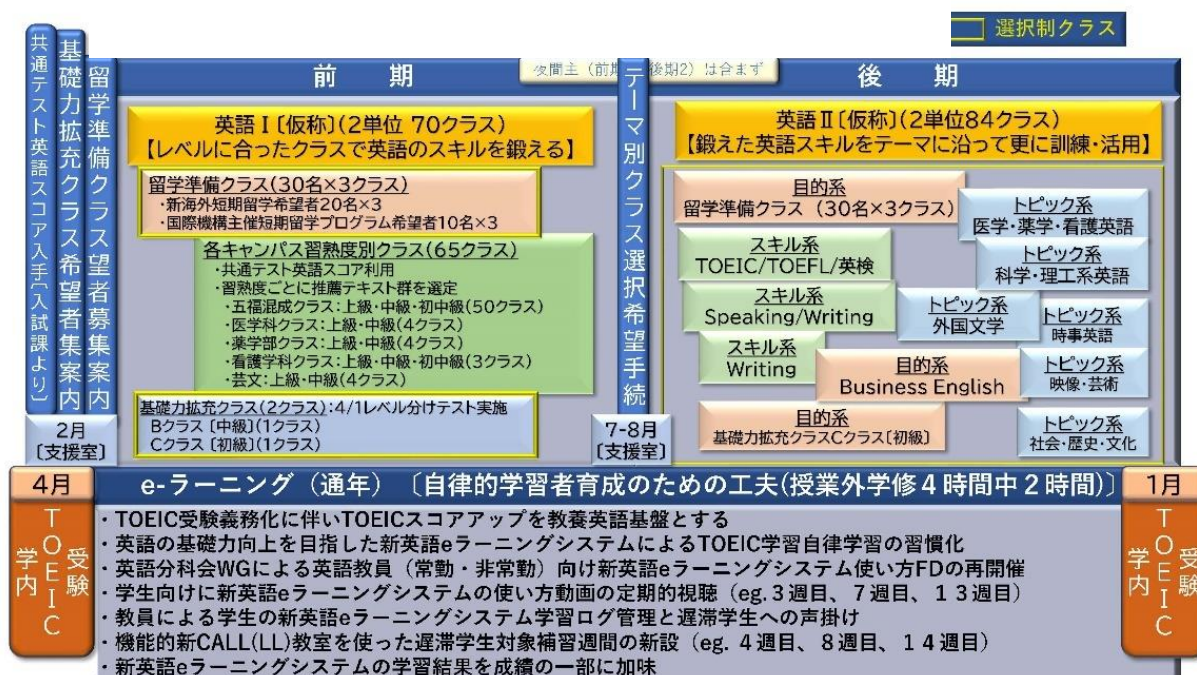


図3：教養英語1科目2単位化カリキュラム概念図

カリキュラム理念としては、前期2単位（英語Iと仮称）で完全習熟度別クラス編成、つまり、それまでの限定的な「留学準備クラス（3クラス）」「基礎力拡充クラス（2クラス）」の習熟度編成に加え、各キャンパス・科目グループごとの全てのクラスで大学入学共通テストの英語スコアを活用した習熟度別複数クラス編成とすることを計画した。そして、英語Iでは英語の4技能（聴力、読解力、発話力、作文力）を習熟度別クラスで効率よく鍛え、前期で鍛えた英語スキルを、後期の「テーマ別」クラス（英語IIと仮称）でさらに向上させる、というシナリオである。「テーマ別」クラス（英語II）に期待を寄せた理由とその理論的背景は、7節で述べる。

¹² 2021（令和3年）度より旧バージョン(ALC NetAcademy 2)サポート期限到来を機にその後継版として導入された。e-learning 導入の経緯とその具体的活用については、山岸、水野、木村、竹腰、藤川、小田（2022）を参照。

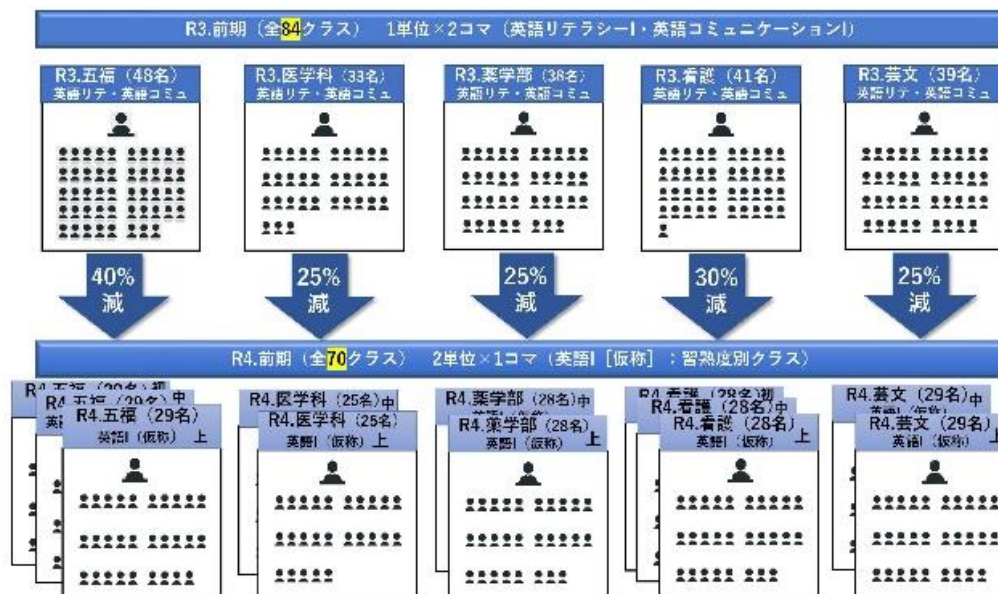


図4：教養英語1科目2単位化によるクラス規模縮小化のイメージ図（前期の例）

この「2単位×2科目」カリキュラムに対し、理事らからは厳しい意見が出た¹³。それらは主に、1)大学経営の視点からの意見、2)授業の質保証の視点からの意見、3)テーマ別クラス履修者人数に関する意見に大別できる。それらをまとめると次のように要約できる。

- 1) クラス人数の縮小化にも適正規模があり、規模が小さすぎることへの懸念がある
- 2) 1単位4科目を2単位2科目とすることに伴い学修時間数が減少する点において、e-ラーニング活用による教育の質を担保する工夫に具体性が欠ける
- 3) テーマ別クラス（2021（令和3）年9月当時）の中には履修者が1桁のクラスもあり、非効率的である¹⁴

この懇談会の結果を受け、英語分科会教養英語カリキュラム検討WGは「2単位×2科目」案を断念した。

6. 「1単位×4科目」カリキュラムへの回帰と新たな挑戦

2022（令和4）年度からの教養英語カリキュラムは、2018（平成30）年度から2021（令和3）年度まで実施された「1単位×4科目」へと振り出しに戻った形となったが、カリキュラム理念と整合性を再度検討し、4科目に新しい名称をつけるとともに、それらのクラス規模も変更した（図5）。

¹³ 2020（令和2）年9月24日理事らとの懇談会。

¹⁴ 当時の「テーマ別」クラスは、学籍簿順に予め決められていたクラスからの選択であったため、履修学生数が1桁の「テーマ別」クラスが存在し、理事らはその履修数に懸念を示した。この点は、2022（令和4）年度からの「テーマ別」クラス編成と異なる。2022（令和4）年度からの「テーマ別」は、履修希望学生を平均化するため、他部局からの協力教員担当の「テーマ別」クラスであっても30名～40名の履修者を想定している。この時点における理事らとの懇談では、まだここまで明確に計画が具体化していなかった。

変更は以下の通り要約できる。

[前期・後期の科目名とその内容・目的]

- ・前期：ESP¹⁵ I (Level-based) 1 単位 (1 クラス 35 名) : 4 技能を鍛えるクラス
- ・前期：基盤英語¹⁶ I 1 単位 (1 クラス 65 名) : TOEIC 得点向上を目的とするクラス
- ・後期：ESP II (Interest-based) 1 単位 (1 クラス平均 35 名) : 「テーマ別」クラス
- ・後期：基盤英語 II 1 単位 (1 クラス 65 名) : TOEIC 得点向上を目的とするクラス

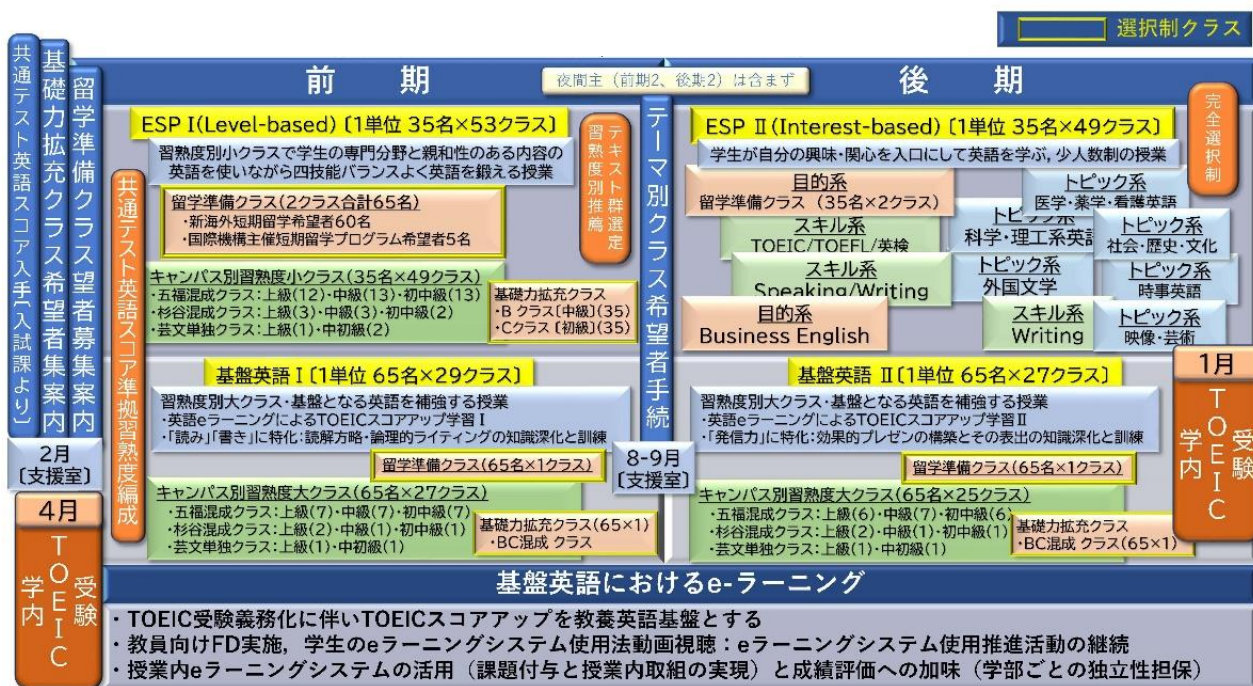


図 5 : 小クラス (35 名) 実現のための大クラス (65 名) クラス設置カリキュラム

常勤・非常勤の英語教員数には限りがある中で, ESP I (前期 1 単位, 習熟度別クラス編成) を 35 名の小規模クラスにするためには, 基盤英語 I (前期 1 単位, 習熟度別クラス編成) を 65 名規模とし, 担当教員数を減らす必要があった¹⁷。担当教員についても, ESP I には主として英語を母語とする教員を充て, 小規模クラスで英語による授業を展開し, 4 技能のレベルアップを効率よく図ることを計画した。そして大規模クラスでは, e-ラーニングによる TOEIC 得点アップコースの学修履歴

¹⁵ ESP の名称選択の根拠は, 教養英語に対するキャンパスごと温度差 (例えば五福混成クラスであればより EAP に傾斜し, 杉谷医療系は職業を意識した EOP 観がより馴染むであろうし, 高岡芸術系はまさに「特定目的のための英語」であるという意見) から, EAP, EOP を包含する上位概念としての ESP を選択した。

¹⁶ 英語名: Fundamental English

¹⁷ 大規模クラスと小規模クラスの発想は, 連合王国における大学院の講義 (大クラス) とそれを補うチュートリアルクラス (小クラス) のスタイル (例: ウォーリック大学, エセックス大学) の事例も参考となった。

を確認し、その結果を成績評価の一部とする計画から、日本語のインターフェースしかない e-ラーニングを操作するために日本人英語教員を充てる計画を立てた。

しかしこの計画も、実際に教室の数と規模に落とし込めるかどうかについて教養教育支援室と協議を重ねるうち、大規模クラスを収容できる教室が十分に確保できないことから、クラス人数の規模縮小を余儀なくされた。

こうして、カリキュラムデザインは二転三転し、現行の「英語リテラシー」「英語コミュニケーション」（1単位×4科目）と変わらないクラス規模・構造とならざるを得なかった。しかし、その変更の過程で、これまではなかった仕組みや評価方法も英語分科会カリキュラム検討 WG 内での議論を基盤としながら、教養教育院教授会や大学の教育推進センター会議等における「単位の厳格化」議論の流れとも相まって、徐々にではあるが具体化して来た。その主な内容は以下の通りである。

- ・大学入学共通テストスコア（リーディング）に基づいた習熟度別カリキュラムと各習熟度別クラスのレベルに相当する教材選定のための指標の提供（図6，図7）
- ・「上級クラス」，「基礎力拡充クラス」の習熟度別クラスへの発展的吸収
- ・学生の興味・関心に基づいた選択制カリキュラム（テーマ別クラス）の本格的な実施¹⁸
- ・基盤英語における e-ラーニング学修と 1 月時 TOEIC-IP の結果の成績への反映方法の具体化
- ・各科目の「ねらいと位置付け」「達成目標」の共通化と評価方法の共通化
- ・習熟度別クラス（ESP I，基盤英語 I・II）における「秀」の割合の目安の提供（図7）
- ・国際機構主催による 60 名学生海外短期英語研修派遣に連動することを目的の 1 つとした「留学」クラスの設置

習熟度クラス編成は ESP I（前期），基盤英語 I（前期），基盤英語 II（後期）で実施する（図6）。すでに 2021（令和3）年度の入学生の共通テストの英語スコアを利用し、習熟度ごとのクラスの「箱」（図7）は完成している。ここに 2022（令和4）年度の合格者を英語の共通テスト上位から埋める。その際、五福文系クラス（人文学部，教育学部，経済学部），五福理系クラス（理学部，工学部，都市デザイン学部），杉谷混成クラス（医学部，薬学部）について共通テストの点数で「留学1」クラス（2021年度データに基づき4クラスを編成）と「留学2」クラス（2021年度データに基づき3クラスを編成）の2段階を設置した。高岡キャンパス（芸術文化学部）のクラスにも五福文系・五福理系・杉谷混成の「留学1」および「留学2」に相当する学生が存在したが、それらの学生を収容するため、「留学2」クラスを設置した。「留学2」クラスとしたのは、高岡キャンパスの場合は学生数が少なく、留学対象クラスの分類を大括りにせざるを得なかったためである。これらのクラスは国

¹⁸ 「本格的な実施」とは、2021（令和3）年度までの「テーマ別クラス」は学籍番号順クラスからの選択であったのに対し、2022（令和4）年度からは、完全選択クラスの中に組み込まれ、英語教員・他部局教養英語協力教員に関係なく、希望順位に沿って20-40名の履修人数の収容を想定する、という意味である。

際機構主催による 60 名海外短期英語研修派遣に連動するクラスとし, ESP I, 基盤英語 I, II においてこれらのクラスを担当する予定の教員に対して留学に資する授業展開の工夫を依頼した¹⁹。

TOEIC スコア向上を目的とした基盤英語では, 基盤英語 I における e-ラーニング学修の最終成績への反映率を 10%とし, 基盤英語 II では 1 月実施の 2 回目の TOEIC IP のスコアを換算し, 最終成績に 30%の割合で反映することとした。

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から 2021 年 4 月 9 日付けで指摘を受けた, 「同一科目や同一科目群における (成績評価の) 公平性の担保」への対応について, 習熟度別カリキュラム条件下での同一科目群の成績評価の公平性を担保する案とし, 英語分科会からの提案で「習熟度別編成で行っている同一科目の授業は, 複数クラス全体で目安とする役割を準用することができる」ことが承認され²⁰, それに伴い, 図 7 のような具体的数値で習熟度別に「秀」の割合を算定した。

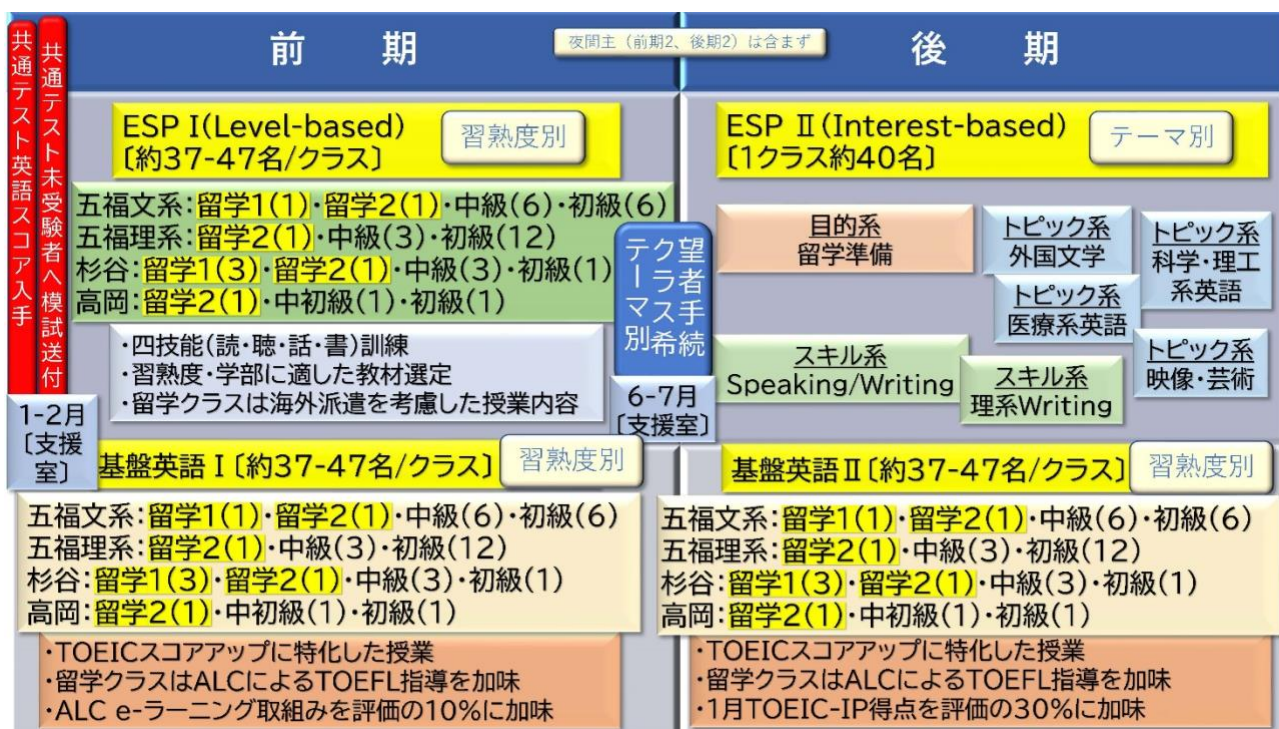


図 6 : 2022 (令和 4) 年度からの教養英語カリキュラム骨子

¹⁹ 2022 年 1 月 7 日英語分科会で実施したオンライン FD で説明, 依頼した。

²⁰ 令和 3 年度第 9 回教養教育院教授会 (令和 3 年 11 月 17 日) 審議決定。

H:Humanities S:Sciences M:Medicine P:Pharmacies N:Nursing A:Art	五福文系クラス			五福理系クラス			杉谷混成クラス			高岡クラス			
	略名	クラス分類	教材選定のためのTOEICスコア	略名	クラス分類	教材選定のためのTOEICスコア	略名	クラス分類	教材選定のためのTOEICスコア	略名	クラス分類	教材選定のためのTOEICスコア	
留学1	H1	留学1					MPN1	留学1					
							MPN2	留学1					
留学2	H2	留学2		S1	留学2		MPN3	留学1					
留学2高岡										A1	留学2		
中級	H3	中級		S2	中級		MPN4	留学2					
	H4	中級		S3	中級		MPN5	中級					
	H5	中級		S4	中級		MPN6	中級					
	H6	中級					MPN7	中級					
	H7	中級											
	H8	中級											
中・初級										A2	中・初級		
初級	H9	初級		S5	初級		MPN8	初級			A3	初級	
	H10	初級		S6	初級								
	H11	初級		S7	初級								
	H12	初級		S8	初級								
	H13	初級		S9	初級								
	H14	初級		S10	初級								
				S11	初級								
				S12	初級								
			S13	初級									
			S14	初級									
			S15	初級									
			S16	初級									

習熟度別「秀」割合

習熟度別クラス	「秀」%
留学1	40
留学2	30
留学2（高岡）	20
中級	10
中・初級	5
初級	3

注1:クラス分類は、大学入学共通テスト(リーディング)の点数を基準とし、全学生グループ(五福文系クラス～高岡クラス)を統一された点数基準に従ってクラスを分ける。
 注2:教材選定のためのTOEIC-IPスコアは、各クラスの4月受験時のTOEIC-IPの平均値(前年度の結果に基づいた推定値)である。
 注3:クラス分類のための大学入学共通テストおよび、教材選定のためのTOEIC-IPスコアの具体的な数値は公開を控えた。

図7:2022(令和4)年度教養英語カリキュラム習熟度・教科書選別指標・クラス別「秀」割合

7. 「テーマ別」クラスの本質：その可能性と実現性

現在「テーマ別」クラスと呼ばれているカリキュラム編成の本質は、英語教員の得意分野や他部局協力教員の専門分野を反映したクラスを用意し、学生各自の興味・関心に応じたクラス選択を可能とすることで、英語学習への動機づけを維持しつつ、2年次以降の各部局における専門英語へつなぐところにある。クラスの選択権は学生側にあり、したがって、学習者の主体(learner agency)(Gao, 2010; Vitanova, Miller, Gao, & Deters, 2015)を尊重しつつ、「英語で」学ぶ自律的学修への入口と位置づける。この点、ESPとの親和性が高いCLIL(Content and Language Integrated Learning)²¹も実行可能であり(Martín del Pozo, 2017)、その延長線上には留学生が在籍する学部・大学院課程のEMI(English Medium Instruction)の授業(Bradford & Brown, 2018)が到達点として見えて来る。

²¹ 「内容言語統合型学習」。内容学習(例えば教科科目やテーマ)について、習得目標言語を使い学習する形態(例えば、理系の内容を英語を使って教える形態)。学習内容(Content)の理解を重視し、学習者の思考・学習スキル(Cognition)にフォーカスしながら、コミュニケーション能力(Communication)の育成、学習者の文化(Culture)の意識を高める(笹島, 2017)。

一方、その実現性に目を向けた時、テーマ別クラスを設置できる時間割上の制約と、その時間割における担当教員の確保といった現実がテーマ別クラスの成否に大きく影響する。例えば、英語分科会カリキュラム検討WGメンバーで、教養英語全体の時間割を担当する教員²²によれば、2022（令和4）年度のテーマ別クラス担当者枠は図8に示した網掛け部分であり、この枠に英語専任・英語非常勤・他部局協力教員がどのようなテーマで並ぶかは教員が選択する時間割の曜日・時限や教員が準備するテーマに依存するという。したがって、選択できるテーマの幅や内容について曜日によって差異が生じることは避けられない。また、学生の選択優先順位と各クラスへの分配人数の調整などについて、今後具体的かつ慎重に取り決める必要がある。

			五福文系	五福理系	五福文系	五福理系	五福文系	杉谷混成			
前期	月	1	基盤 I							学内協力	
	火	2	ESP I								
後期	月	1	基盤 II							学内協力	
	火	2	ESP II								
			H1	S4	H7	S10	H13	MPN1			
前期	月	2	基盤 I							学内協力	
	水	1	ESP I								
後期	月	2	基盤 II							学内協力	
	水	1	ESP II								
			H2	S5	H8	S11	H14	MPN2			
前期	火	1	基盤 I							学内協力	
	水	2	ESP I								
後期	火	1	基盤 II							学内協力	
	水	2	ESP II								
			H3	S6	H9	S12		MPN3			
			五福理系	五福文系	五福理系	五福文系	五福理系	杉谷混成		英文	
			S1	H4	S7	H10	S13		MPN4	MPN7	A3
前期	月	1	ESP I								学内協力
	火	2	基盤 I								
後期	月	1	ESP II								学内協力
	火	2	基盤 II								
			S2	H5	S8	H11	S14		MPN5	MPN8	A1
前期	月	2	ESP I								学内協力
	水	1	基盤 I								
後期	月	2	ESP II								学内協力
	水	1	基盤 II								
			S3	H6	S9	H12	S15	S16	MPN6		A2
前期	火	1	ESP I								学内協力
	水	2	基盤 I								
後期	火	1	ESP II								学内協力
	水	2	基盤 II								

図8：2022（令和4）年度後期 ESP II（テーマ別）時間割枠

8. 考察

本節では本稿校正執筆時（2022年1月）における2022（令和4）年度からの最新の教養英語カリキュラム（図6，7，8）について、解決しなければならない課題、考えられる問題点について、批

²² 山岸倫子准教授，水野真理子准教授

判的考察を試みる。

1)ESP I，基盤英語 I・II の習熟度別教科書の指針・提示と同一教材採用への考え方

2022（令和4）年1月7日の英語分科会オンラインFDにおいて、習熟度別カリキュラムを採用しているESP I，基盤英語 I，IIにおける選定教材の指標を2021（令和4）年4月時点のTOEIC IPの平均点数とし、それらを各習熟度別クラスのレベルごとに提示して（図7），教科書選定の参考のために付した。2022（令和4）年度からの習熟度別カリキュラムでは習熟度別クラスレベルごとの統一教材・教科書は使用しない。統一教材・教科書は教員自身の授業への工夫を喪失させ、教えるモチベーションを阻害する危険性を孕んでいる。また、教員の授業運用技量で習熟度別クラスのレベルに各自が選んだ教材や教科書を対応させる緩やかな調整は可能であると考えられる。この点、金沢大学国際基幹教育院の「EAP コース」と結果的に同一の考え方である。今後はTOEIC IP平均値を指標として、習熟度別クラスのレベルに合致した教材が選定され、教員の授業運用技量と相互作用しながら授業を展開していけば、統一教材・教科書でなくとも英語能力の向上が実現できるのかどうかを検証していくことが期待されよう。その検証によって独自で選定した教科書を使って授業成果を維持・向上できることが証明されれば、独自教科書維持にせよ統一教科書採用にせよ、あるいはその併用を考える際にも、その証明は大いに参考になる。そうした観点からも、2022（令和4）年4月以降の教養英語の実施状況やその成果について評価・検討していくことは当然必要かも知れない。

2)基盤英語 I の e-ラーニング取組み成果の確認と、基盤英語 II の TOEIC-IP 結果の成績への反映率

基盤英語 I の共通評価として e-ラーニングの取組み成果を一定割合で最終成績に取り込むことにしている。すでに2021（令和3）年度後期から「英語リテラシーII」において前述の「同一科目や同一科目群における（成績評価の）公平性の担保」への対応のために、2021（令和3）年度後期から「英語リテラシーII」において、ALC NetAcademy NEXT の学習ログを上限10%で成績に反映する試みが進行している。しかし、この e-ラーニングシステムのログを10%上限で成績に反映する方法を統一して各担当教員に提示することは、その方法として色々なケースが想定されるため、結果的には担当者への一任ということにならざるを得ない側面が多分に存在する。

基盤英語 II では、1月受験の TOEIC IP スコアを換算し、最終成績の30%に反映させることとした。この割合に定めた理由は、受講生の TOEIC への取組みにかなりの動機づけが期待できると考えたからである。残された課題としては、各習熟度別クラスのレベルに関わらず、同一の換算式で最終成績に加味するのか、あるいはレベルごとに異なる換算式を用いるのかが考えられ、それに関しては早急に決定する必要がある。

基盤英語 I，II の授業展開方法については一定の収斂の方向性が見えて来ている。具体的には、いずれの科目も「60分程度以上の TOEIC 問題演習訓練の授業中における実施」と「30分程度の各教員独自の授業展開」から構成される。60分程度以上の TOEIC 問題演習訓練には、ALC NetAcademy NEXT を授業中に実施することも可能であり、あるいは、教員が選定した TOEIC 訓

練用教科書²³による TOEIC 訓練授業も可能とした。

9. 2022（令和4）年以降の取り組みへの挑戦をささえるもの：結語に代えて

先に描写した2つの大学の先進事例は多いに参考にはなるが、一つは強力なリーダーシップを発揮するリーダーの存在に応える形で作られた教養英語教育であり、もう一つは国家プロジェクト採用を機に大学改革の一環に組み込んで実施された教養英語改革である。これらは、いずれもトップ・ダウンの加重が英語教員の現場に掛かり、しかしながらその加重を現場でしっかりと受け止めて成果を出しているという感がある。そのいずれにも当てはまらない本学で、さらに新しい教育観である「変容的教育(trasformational pedagogy)」を具現化するカリキュラムを構築し、自律した外国語（英語）学習者を育成するためには、これまで通りボトム・アップで、正解なき課題に落としどころを、しかも限られた時間で見つけていかなければならない。そして、見つけた落としどころがうまく機能するか、その検証も欠かせない。

「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」への転換点は、今回の本学のカリキュラム改訂では ESP II の成否にかかっているかも知れない。その転換点でどれくらいの学生が我々の構想通りに転換していつてくれるのか、あるいは、計画は砂上の楼閣に終わってしまうのか、いずれにしても初の試みには今後の長い検証作業と微調整が必要となってくる。とりわけ ESP II の充実化のための一翼を担う他部局からの協力教員数の確保には、「全学出動体制」というスローガンのみでは不十分と考える。まずこれら協力教員が教養英語に参画していることに対する、所属部局の認識が必要である。加えて、教養英語への協力に対するインセンティブの付与を大学全体で考える必要性があるだろう。

最後に、1つの引用で本稿を締めくくりたい。いつ「英語を」から「英語で」に移行するのが適切であるのか、教養教育の1年間でそれを実現するには余りにも短いのではないかと感じていた。そのようなジレンマと疑問を感じていた時、次の私信をいただいた。

大学での「狭義の英語教育」（いわゆる英語担当教員が担当する授業で構成されるプログラム）の期間を2年生までとか、3年生までとか、といった議論はあまり意味がないと思います。一義的な英語教育はいつか必ず終わります。それは学生個人でみた場合、英語学習の終わりではありません。むしろその点が自らで学ぶ「始まり」であると思っています。...私はそれが大学1年であってよい、と思います。...いつかは「英語を教える」段階から「英語で教える」段階に移行する必要があると思いますが、...それが一般教養と専門の移行期であろうと思います。...英語教育の期間を長く伸ばしても、成果はますます上がらない...むしろ、自分の専門科目の内容を「英語で」学ぶようにする方が、学生のニーズに沿うので、ずっと動機づけの点でよいです（澤田，私信，2021年10月31日）。

²³ 実際の TOEIC の問題を解きながら得点アップを目指すために発行された教科書。

今回の教養英語改訂はようやく他大学に追いつく一つの重要な機会であると考えている。その機会を確実に捉え、一定の効果を見るには、まだ時間を掛けて構築しなければならない案件が数多く残っている。しかし、いつかは「英語を」から「英語で」学ぶことが全学に敷衍するように、まずは1年次の全学生の英語力向上に努め、その後は各部局での英語教育に託したい。

10. 参考資料

【歴代外国語部会英語分科会カリキュラム検討WGメンバーと主な活動】

第Ⅰ期：2016（平成28）年8月～

（部会長・副部会長は「教養教育院教育企画実施委員会」の下部組織として設置された「新教養教育カリキュラム等検討ワーキンググループ」の構成員となり、部会ごとに「サブメンバー」の組織化も許容された。）

奥村譲（外国語部会長・人文学部）、木村裕三（副部会長・医学部）、深谷公宣（副部会長・芸術文化学部）、水野真理子（医学部・サブメンバー）、Theron Muller（外国語教育専任教員・サブメンバー）、小野直子（人文学部・サブメンバー）、恒川正巳（人文学部・サブメンバー）、山岸倫子（教養教育院・サブメンバー）

- ・2017（平成29）年2月1日：教養教育院長（当時）と英語教員との2018（平成30）年度からの新教養英語カリキュラムに関する説明会

第Ⅱ期：2017（平成29）年4月～

木村裕三（外国語部会長・医学部）、荻原洋（副部会長・人間発達科学部）、深谷公宣（副部会長・芸術文化学部）、山岸倫子（教養教育院）、水野真理子（医学部）

- ・2017（平成29）年12月12日英語分科会カリキュラム検討WG下に「習熟度別カリキュラム検討委員会」設置。委員：木村裕三（外国語部会長）、荻原洋（副部会長）、深谷公宣（副部会長）、水野真理子（医学部）、山岸倫子（教養教育院）、岡崎浩幸（大学院教職実践開発研究科）

第Ⅲ期：2018（平成30）年4月～（教養教育一元化スタート、教養教育院への教員移籍一部残し完了）

木村裕三（外国語部会長・医学部）、荻原洋（副部会長・人間発達科学部）、山岸倫子（副部会長・教養教育院）、水野真理子（教養教育院）（3/31付深谷公宣准教授転出）

- ・「習熟度別カリキュラム検討委員会」2018（平成30）年度通算5回の会議を開催。上級クラス、基礎力拡充クラス設置に向けて議論を重ねた。
- ・12月芸術文化学部代表として小田夕香理講師（当時）がメンバーに参加

第Ⅳ期：2019（平成30/令和1）年4月～

木村裕三（外国語部会長・医学部）、荻原洋（副部会長・人間発達科学部）、山岸倫子（副部会長・教

養教育院), 水野真理子 (教養教育院) 小田夕香理 (芸術文化学部)

- ・4月: 基礎力拡充クラス, 上級クラス, 選択制「テーマ別」クラス開講
- ・11月20日: 「グローバル対応授業」として60名海外派遣可能性の主旨説明 (出席者: 磯部理事, 池田理事, 木村外国語部会長, 荻原副部会長, 山岸副部会長, 水野 WG 委員, 教養教育支援室長, 留学支援課)

第V期: 2020 (令和2) 年4月～

木村裕三 (外国語部会長・医学部), 竹腰佳誉子 (副部会長・人間発達科学部), 山岸倫子 (外国語部副部会長・教養教育院), 水野真理子 (教養教育院), 小田夕香理 (芸術文化学部), 藤川勝也 (人文学部)

- ・1月: 人文学部代表として藤川勝也准教授がメンバーに参加
- ・4月: 荻原洋教授に代わり, 人間発達科学部を代表して竹腰佳誉子准教授がメンバーに参加
- ・9月24日: 理事らとの「2単位×2科目」案の検討,
- ・12月27日: 佐賀大学副学長・全学教育機構長早瀬博範氏講演「佐賀大学における英語教育体制と今後の展開」

第VI期: 2021 (令和3) 年4月～現在

木村裕三 (外国語部会長・医学部), 竹腰佳誉子 (副部会長・人間発達科学部) 山岸倫子 (副部会長・教養教育院), 水野真理子 (教養教育院), 小田夕香理 (芸術文化学部), 藤川勝也 (人文学部)

- ・全学1年次生対象とした TOEIC-IP の大学経費による年2回 (4月, 1月) の実施開始
- ・2021 (令和3) 年度より, 外国語部会英語分科会教養教育カリキュラム検討 WG を「外国語部会英語分科会教養教育カリキュラム検討 WG」(教養英語「新」カリキュラムに関する案件を議論) と「外国語部会英語分科会教養英語科目運営 WG」(現行の教養英語カリキュラムに関する案件を議論) の2つに並列し開催。
- ・7月9日教養教育院「教育改善検討ワーキング」より, 英語分科会に対し, 後期教養英語科目に「共通評価」を適用するよう依頼。7月27日月例英語分科会 WG で審議し, 9月6日に専任・非常勤英語教員, 他部局協力教員に対してオンライン FD 実施。後期シラバスの評価部分が共通文言に入れ替わることへの周知を図った。

【他部局からのテーマ別クラス協力教員〔前・後期, 曜日, 科目, 単独・複数担当, 継続期間の順〕】

2019 (平成31/令和元) 年度

〔単独担当〕 田端俊英教授 (工学部): 前期火曜1限英語リテラシー I

2020 (令和2) 年度

〔単独担当〕 田口文明教授 (都市デザイン学部): 前期火曜2限英語リテラシー I

- 〔単独担当〕 田端俊英教授（工学部）：後期火曜 1 限英語リテラシーⅡ
〔単独担当〕 須永修枝特命助教²⁴（人文学部）：後期火曜 1 限英語リテラシーⅡ
〔単独担当〕 船橋伸一特命教授（アドミッションセンター）：後期水曜 2 限英語コミュニケーションⅡ
〔複数担当〕 浜崎景准教授・西丸広史准教授・井上蘭助教・土田暁子助教（医学部）：後期月曜 1 限英語リテラシーⅡ
〔複数担当〕 吉井美穂准教授・城諒子助教（医学部）：後期月曜 2 限英語リテラシーⅡ

2021（令和3）年度

- 〔単独担当〕 喜久田寿郎准教授（工学部）：前期月曜 2 限英語リテラシーⅠ
〔単独担当〕 神山智美准教授（経済学部）：前期火曜 1 限英語リテラシーⅠ
〔単独担当〕 朴銀鏡講師（国際機構）：前期火曜 2 限英語コミュニケーションⅠ
〔単独担当〕 小野恭史准教授（研究推進機構）：後期月曜 2 限英語リテラシーⅡ
〔単独担当〕 木戸茜講師（経済学部）：後期月曜 1 限英語コミュニケーションⅡ
〔単独担当〕 吉川朋子准教授（国際機構）：後期火曜 2 限英語コミュニケーションⅡ
〔複数担当〕 吉井美穂准教授（医学部）・城諒子助教（医学部）：後期月曜 2 限英語リテラシーⅡ

2022（令和4）年度（全て後期の ESPⅡ(Interest-based)〔「テーマ別」クラス〕を担当予定)

- 〔単独担当〕 喜久田寿郎准教授（工学部）：月曜 2 限
〔単独担当〕 田端俊英教授（工学部）：火曜 1 限
〔単独担当〕 菅野憲助教（工学部）：火曜 1 限
〔単独担当〕 吉川朋子准教授（国際機構）：火曜 2 限
〔単独担当〕 小野恭史准教授（研究推進機構）：水曜 1 限
〔単独担当〕 朴銀鏡講師（国際機構）：水曜 2 限
〔複数担当〕 吉井美穂准教授（医学部）・城諒子助教（医学部）：月曜 2 限
〔複数担当〕 鹿児島渉梧特命助教（理学部）・佐藤杏子助教（理学部）：火曜 2 限
〔複数担当〕 谷本裕樹准教授（薬学部）・Sharmin Shishir 助教（極東地域研究センター）：水曜 2 限

References

- Bradford, A., & Brown, H. (Eds.). (2018). *English-medium instruction in Japanese higher education: Policy, challenges and outcomes*. Multilingual Matters. <https://doi.org/10.21832/BRADFO8941>
Cummins, J. (2004). Using information technology to create a zone of proximal development for academic language learning: A critical perspective on trends and possibilities. In C. Davidson (Ed.), *Information technology and innovation in language education* (pp. 105–126). Hong Kong

²⁴ 2021（令和3）年度より英語分科会メンバーに移籍。

University Press.

- Gao, X. (2010). *Strategic language learning: The roles of agency and context*. Multilingual Matters.
- LogMeIn (2021). GoToWebinar [Computer software]. LogMeIn. <https://www.logmein.com/>
- Manyukhina, Y., & Wyse, D. (2019). Learner agency and the curriculum: A critical realist perspective. *Curriculum Journal*, 30(3), 223–243. <https://doi.org/10.1080/09585176.2019.1599973>
- Martín del Pozo, M.Á (2017). CLIL and ESP: Synergies and mutual inspiration. *International Journal of Language Studies*, 11(4), 57–76.
- Nitta, R., & Yamamoto, Y. (2020). Reconceptualizing CLIL from transformative pedagogy perspective: Pilot debate study in English language curriculum. *Journal of Foreign Language Education and Research*, 1, 47–62.
- Vitanova, G., Miller, E. R., Gao, X., & Deters, P. (2015). Introduction to theorizing and analyzing agency in second language learning: Interdisciplinary approaches. In P. Deters, X. Gao, E. R. Miller, & G. Vitanova (Eds.). *Theorizing and analyzing agency in second language learning: Interdisciplinary approaches* (pp. 1–13). Multilingual Matters.

参考文献

- 愛媛大学英語教育センター(2021, October 15). 『愛媛大学英語教育センター』
<http://web.eec.ehime-u.ac.jp/index.html>
- 深谷公宣・小田夕香理(2016). 「芸術系学生のための英語教育のありかた-富山大学芸術文化学部英語教育実践報告と課題の考察」『富山大学芸術文化学部紀要』第10巻, 78–84.
- 早瀬博範(2016). 「佐賀大学における TOEIC の全学的導入による英語教育体制の強化-『自律した学習者』の養成をめざして-」『佐賀大学全学教育機構紀要』第4号, 99–112.
- 金沢大学国際基幹教育院(2020). 『令和2(2020)年共通教育科目履修案内』金沢大学国際基幹教育院
- 水野真理子, 山岸倫子, 木村裕三, 竹腰佳誉子, 藤川勝也, 小田夕香理, 荻原洋(2022). 「英語習熟度別クラス編成に向けて-上級, 基礎力拡充クラスの実施-」『富山大学教養教育院紀要』第3号, 82–88.
- 日本学術振興会(2021, October 19). 『スーパースーパーグローバル大学創設支援事業』
https://www.jsps.go.jp/j-sgu/h26_kekka_saitaku.html
- 奥村譲(2017). 「新教養教育外国語: 神川理事による説明(平成29年2月1日)報告」
- 佐伯胖, 藤田英典, 佐藤学(1995). 『シリーズ学びと文化6 学び合う共同体』東京大学出版.
- 笹島茂(2017). 「CLILとは」『日本 CLIL 教育学会』<https://www.j-clil.com/clil>
- 田地野彰, 水光雅則(2005) 「大学英語教育への提言」竹蓋幸生, 水光雅則(編)『これからの大学英語教育』1–46, 岩波書店.
- 東條加寿子(2015). 「大学英語教育の中のジャンル分析-その影響力の検証-」『大阪女学院大学紀要』第12号, 17–26.

富山医科薬科大学(2001).『学生便覧 平成13年度』富山医科薬科大学.

富山大学(2016).『平成28年度入学生用五福キャンパス教養教育ガイド』富山大学学務部学務課教養教育チーム.

富山大学芸術文化学部(2017).『平成29年度履修の手引き』富山大学芸術文化学部.

富山大学杉谷（医療系）キャンパス(2017).『医学部・薬学部履修の手引き』富山大学杉谷（医療系）キャンパス医薬系学務課.

山岸倫子，水野真理子，木村裕三，竹腰佳誉子，藤川勝也，小田夕香理(2022).「TOEIC® Listening & Reading Test の導入と e-learning 学修の活用」『富山大学教養教育院紀要』第3号，89-94.

謝 辞

本稿を執筆するに当たり，以下の方々に多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

- ・前佐賀大学全学教育機構長（現宮崎国際大学国際教養学部副学部長・教授） 早瀬博範氏
- ・金沢大学国際基幹教育院外国語教育センター長・教授 澤田茂保氏
- ・神戸大学国際コミュニケーションセンター教授 横川博一氏
- ・愛媛大学英語教育センター事務課 尾崎康子氏
- ・富山大学教養教育院准教授 福田翔先生（山口大学大学教育センター情報の提供）
- ・富山大学教養教育支援室（金沢大学，福井大学，新潟大学の教養（共通）教育体制情報等の提供）
- ・富山大学芸術文化学部総務課学務チーム（教養教育一元化前の，2年次科目の履修者数の調査・提供）

木村裕三

富山大学医学部

竹腰佳誉子

富山大学発達科学部（2022〔令和4〕年度より教育学部）

山岸倫子

富山大学教養教育院

水野真理子

富山大学教養教育院

藤川勝也

富山大学人文学部

小田夕香理

富山大学芸術文化学部